

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
家庭	家庭 総合	2・3年 福祉科	4 単 位	高等学校 新版 家庭総合 ともに生きる・持続可能な未来 をつくる (第一学習社)	資料集 最新生活ハンドブック資料&成分表 (第一学習社)

到達目標	人の一生と家族・家庭、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
------	--

評価の観点	A 関心・意欲・態度	B 思考・判断・表現	C 技能	D 知識・理解
	人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、消費生活、衣食住等について関心を持ち、その充実向上をめざして意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。	人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、消費生活、衣食住等について見直し、生活課題を主体的に解決するために思考を深め、適切に判断し、工夫、創造・表現する能力を身につけている。	人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、消費生活、衣食住等に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身につけている。	人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、消費生活、衣食住等に関する基礎的・基本的な知識を総合的に身につけている。

学習の評価	・定期考査。 ・ワークシートや作品、レポートなど課題の提出物が期日を守り提出されているか・その内容は充実しているか。 ・授業態度、実験・実習等に主体的・積極的に参加しているか。 ・ホームプロジェクトの提出とその達成度。 以上の事柄を多角的・総合的に判断し、評価する。
-------	---

単元	学習内容	到達目標
1章 これからの生き方と家族 第1節 青年期を生きる 第2節 家族・家庭と社会との かかわり	1.自分らしい人生とは 2.青年期の課題 3. ワーク・ライフ・バランス 1.家族とは？ 家庭とは？ 2.これからの生活をつくる 3. 家族・家庭に関する法律	・家族を単位としたライフステージがあり生活課題があることを理解し、自分の人生について考える。 ・多様化しつつある現代の家族の特徴、家族の機能の変化、民法について理解する。 ・家事分担を通して、多様化する家族像・自立・労働・などについて理解する。
2章 次世代をはぐくむ 第1節 子どもの発達 第2節 親の役割 第3節 子育て支援と福祉	1.命のはじまり 2.子どもの心身の発達 1.親と子の関係 2.乳幼児期の生活 1.子育て支援と地域社会のかかわり 2.子どもの人権と福祉	・乳幼児の発達の特徴を、家庭や環境との関わりをとおして理解し、子どもの成長に関わる立場である親や家族の役割と責任を考える。 ・赤ちゃんふれあい体験を通して、乳幼児への理解を深める。 ・子どもの発達と環境との関わりについて認識し、これからの保育のあり方について考える。 ・少子社会における子育て支援・児童福祉の意義について理解する。
3章 充実した生涯へ 第1節 高齢期を生きる 第2節 高齢社会を支え合う	1.高齢期をどう生きるか 2.高齢期の生きがいと社会参加 1.高齢社会の現状と課題 2.高齢者や家族の支援システム 3.高齢者の尊厳を支える	・加齢による高齢者の心身の特徴について知り、高齢者の自立を支える家族の役割と責任を考える。 ・シニア体験などへの取り組みを通して高齢者の身体状況への理解を深め、相手の立場や気持ちを思いやることは自分を大切にすることでもあることを理解する。
4章 ともに生きる	ともに生きる社会をめざして	・ともに生きるノーマライゼーションの考え方を基礎に、高齢者や障害者等への理解を深め、社会の一員としてどのようにかかわっていけばよいか考える。 (福祉科目の内容と関連させる)
5章 経済生活を営む 第1節 私たちの暮らしと経済 第2節 消費者問題を考える 第3節 持続可能な社会を めざして	1.家庭生活と社会とのかかわり 1.消費者問題と消費者の権利 2.消費者トラブルとその対策 3.クレジット利用のリスク 1.消費生活と環境問題	・経済社会の変化が家庭経済にさまざまな影響を及ぼしていることを理解する。 ・契約や消費者信用、多重債務問題等について理解し、消費者としての適切な判断ができるようにする。 ・消費者基本法等の消費者保護の仕組みについて理解する。 ・多様化する現代の消費生活の課題について認識し、ひとりの消費者として、主体的に考え行動することの必要性について理解できる。 ・消費生活と環境の関わりについて関心を抱き、環境負荷の少ない生活の在り方について認識できる。
6章 食べる 第1節 人の一生と食事 第2節 栄養と食品 第3節 食生活の安全のために 第4節 食生活をデザインする	1.食えることと健康 1.栄養素の種類と食品 2.加工食品、健康増進のための食品 ・食物調理技術検定受験、調理実習 1.食生活の安全・衛生 2.食生活の選択・保存 1.何をどれだけ食べればよいか 2.ライフステージと食事	・自分の食生活の現状を把握し、食と健康のかかわりについて考える。 ・食品の栄養的特徴と調理上の性質、食の安全について理解する。 ・健康で安全な食生活を営むための食物に関する基礎的知識や技術を身につけ、実践することができる。 ・班員で協力して、安全かつ衛生的に調理実習を行うことができる。 ・家庭経営の立場から、家族の日常の食生活に必要な食物に関する基礎的知識や技術を習得させ、食生活を計画的・合理的に営み、その充実向上を図る能力を伸長する。 ・食物調理技術検定4級受験

7章 装う 第1節 人の一生と被服 第2節 被服の製作 第3節 被服の材料と管理	1.日本の衣文化 2.被服の選び方 1.被服製作と採寸、被服製作の用具 1.被服材料の種類と特徴 2.被服の手入れと保管 3.洗濯のしくみ	・衣服の起源、衣文化、衣服のはたらき、被服材料の特徴について理解する。 ・実習を通して、基礎縫いの技術を身につける。 ・自分の技術に合わせて、自分らしさを表現することができる。 ・家庭経営の立場から、家族の日常の衣生活に必要な被服に関する基礎的知識や技術を習得し、衣生活を計画的・合理的に営み、その充実向上を図る能力を伸長する。
8章 住まう 第1節 人の一生と住まい 第2節 住生活の計画と選択 第3節 これからの住生活	1.気候・風土と住まい 2.ライフステージと住まい 3.住まいのインテリア 1.健康で安全な住まい 1.住生活とまちづくり	・自分の日常生活を振り返り、その生活行為と生活時間のつながりや住まいの機能について理解する。 ・住生活と環境、住居の設計などに関する知識を身につけ、自分や家族の1日のライフステージに応じた、快適な住生活について考える。 ・自分に適した住空間について考え、デザインできる。 ・身近な地域の住環境について分析し、「住みよい環境」のためには何が必要か考える。
9章 生活をデザインしよう	1.これからの生活を考える 2.自分の一生を自分らしく生きるために	・ライフプランガイドを用い、自分の未来を描く。 ・自分の生活を見直し、生活設計ができる。
10章 生活の充実・向上をめざして	1.ホームプロジェクトの実践 2.学校家庭クラブ活動について	・ホームプロジェクトを計画に基づき、自主的に解決を目指して実践することができる。 ・学校家庭クラブ活動について知り、日ごろの学科での学びも含め、積極的に実践することができる。 ・近隣の園児へ手作りおもちゃのプレゼント。近隣駅待合室の手作り座布団の製作。 ※介護福祉士国家資格受験のため、福祉科目の内容と関連させて実施する。